寄稿

多職種協働による「食の連携パス」～保健・医療・介護から在宅ケアにつなぐ嚥下調整食～

公益社団法人岩手県栄養士会　会長　澤口　眞規子

はじめに

「食べること」は、生きることであり、誰もが「最期まで自分の口から食べたい」と願っています。その食べ物が自分の好物で、懐かしく、おいしかったら、どれほど満足できるでしょうか。

今回、寄稿したのは、岩手県において、そのような願いを実現させようと関係組織と多職種が協働した成果の報告です。たった3年間でここまで到達できたことをお伝えします。

「嚥下調整食」を共通言語に…

「嚥下調整食」をご存じない方もいらっしゃるでしょう。要介護高齢者等の咀嚼嚥下や身体活動低下の程度に応じて、形態やとろみを調整した食事のことです。飲み込みが悪く、むせがひどい方にも、軟らかく、ある程度の粘性を加えることでツルンと喉通りが良くなり、誤嚥を防ぎます。

厚生労働省「人口動態統計2022」の死亡数を死因別に見ると、第5位は肺炎の7万4002人（4・7％）、次いで第6位は誤嚥性肺炎の5万6068人（3・6％）でした。高齢者が誤嚥性の肺炎に罹患するリスクをできるだけ低減することも嚥下調整食の目的です。

今、食べている嚥下調整食を次につなぎたい

四国4県分の広い面積を有する岩手県では20県立病院および6医療センター、県央には医科大学の特定機能病院、その他約70の民間医療機関があります。急性期病院では入院期間の短縮化が進み、回復期・維持期に対応する二次病院や介護施設への早期転院に努めています。岩手県内の関係施設数を表1に示します。

ここで、とある管理栄養士は考えました。急性期病院で患者個々に調整した嚥下食を次院につなぎたい。情報共有することで、食形態の確認時間が省略され、本人に負担が少ない栄養管理が即応できる！

この提案は誰しもが望むことですが、圏域内の病院、老健、特養ホーム等に声掛けし、連携組織をつくるのは、管理栄養士の努力だけでは難しく、県内各所で一進一退を繰り返していました。

だったら、県内を標準化するしかない！

2019年、栄養士会では、実践力のあるメンバーを招集し、具現化を検討しました。まずは、実情把握と課題整理のためにブロック別の準備会を開催。保健所に共催してもらうことで参集力も高まり、栄養士会未入会者の意見も集めることができました。

【ポイント1】「嚥下調整食」を理解しているは約半数の施設。対応コードと物性に格差あり。

【ポイント2】管理栄養士の施設間の73・1％は情報共有しているが、情報提供様式がさまざま。

表1　岩手県内関係施設数（2023年1月現在）

一般病院	92
有床診療所（食事提供）	16
老人保健施設	65
老人福祉施設	113
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	55
特定施設入所者生活介護	32
計	373

表2　岩手県食形態分類標準化推進委員会（2023年10月現在）

岩手県食形態分類標準化推進委員会

【結成の目的】

食生活及び栄養障害の改善、疾病の再発予防のため、岩手県内の医療、福祉及び保健に関係する施設及び従事者が食形態の共通認識を進め、要介護高齢者の摂食嚥下機能に対応した栄養管理に取組むことを目的とする。

さらに、在宅介護を支援する食生活改善ボランティア等と一体となった県民参加型の地域包括ケアシステムの推進に資する。

構成員の詳細
◎岩手県医師会代表（岩手県立中央病院 院長）
岩手県歯科医師会代表（歯科医院 院長）
回復期・リハ期病院 代表（リハビリテーションセンター 院長）
岩手県介護老人保健施設協会組織代表（医師）
岩手県特別養護老人ホーム組織代表（施設長）
岩手県看護協会代表（摂食嚥下障害看護認定看護師）
岩手県言語聴覚療法士会組織代表
岩手県保健福祉部長寿社会課 担当課長
〃 健康国保課 担当管理栄養士
岩手県医療局、県立病院代表 管理栄養士
岩手医科大学附属病院 栄養部代表 管理栄養士
栄養ケア・ステーション代表 管理栄養士
公益社団法人岩手県栄養士会 組織代表 管理栄養士
岩手県保健所代表、栄養士会副代表 管理栄養士
特別養護老人ホーム栄養部、栄養士会副代表 管理栄養士

【ポイント3】栄養管理部門と他専門職の連携が取れているのは26・9％の施設。

この結果を踏まえ、同年11月に、医師、看護師、言語聴覚士、関係施設長の多職種による「岩手県食形態分類標準化推進委員会」（表2）を結成しました。とても企画力の高い委員会です。事業費は県長寿社会課を通じて公益財団法人いきいき岩手支援財団が実施している「いわて保健福祉基金助成事業」から助成を受けて運営しています。

また、年次別の事業展開を表3に示します。PDCAサイクルにより推進し、常に形あるものを残すことと、進捗評価を実施しています。

前記に示した対応施設割合は、施設区分別、食形態コード（図1）別の実施率の平均値であり、総括すると、全施設がいずれかの嚥下食を提供しており、特別養護老人ホームでの対応が拡大しました。「食の連携パス」として、栄養管理情報提供書を活用し、圏域内の管理栄養士の顔の見える関係に発展しています。

おわりに

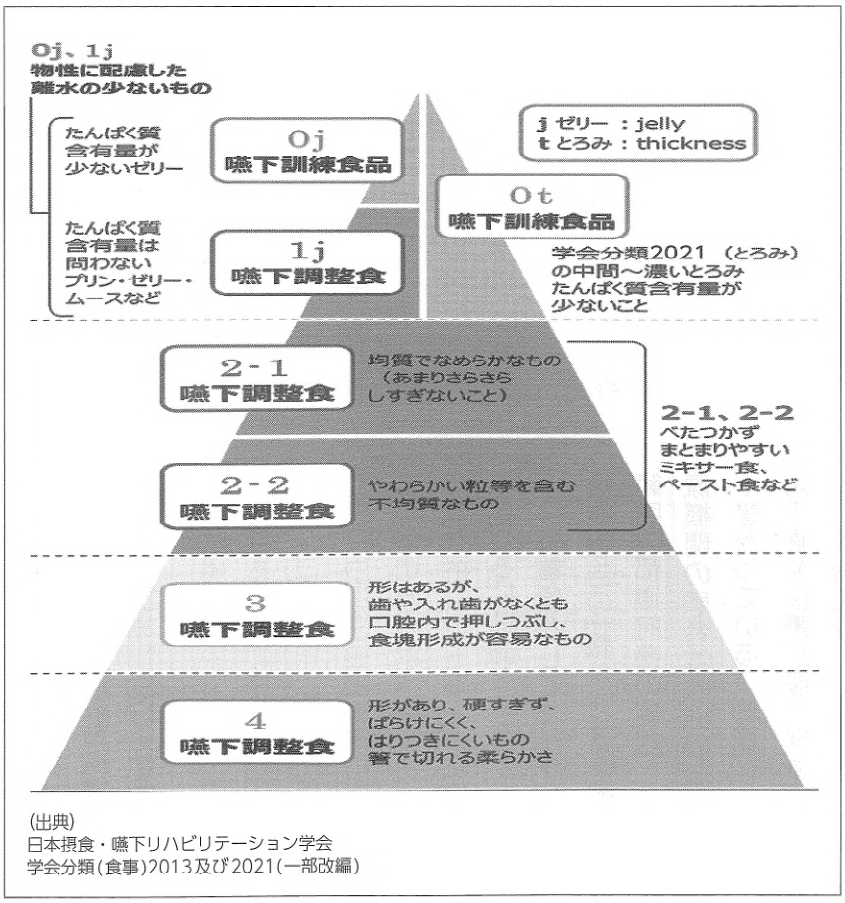
最終目的として、在宅栄養ケアは地域包括推進・自立支援のパスポートとして、病院と施設が発信する「安全に食べるための栄養・食生活アドバイス」が今後、定着するよう活動を進めています。

また、今年度は各施設の嚥下調整食の対応力向上を目的に、経験力に富む「指導マスター」を派遣し標準化に努めているところです。まだまだ課題はありますが、多職種の協力を得たことに、この3年間の成果があると思っています。

表3　年次別の事業展開

	ポイント	主な事業内容	評価
1年次 2020	病院から施設へ高齢者の嚥下咀嚼の機能に応じた食事情報を発信します♥ 	① ★病院と施設の嚥下調整食マネジメント能力向上 「岩手県ガイドライン」作成 ② 食形態分類標準化研修会（試食体験による物性確認） ③ 病院及び高齢者施設給食食形態実態調査（回答94.1％） ④ 委員会2、専門委員会6	① 2,000部作成 ⇒全関係者配布 「栄養管理情報提供書」様式提示 ② 研修会参加321施設、429人 ③ 嚥下調整食（1～4）対応可能施設59.7％（2019調べ）
2年次 2021	どこの病院施設でも、嚥下機能に応じた、美味しい食事を提供します♥ 	① ★嚥下調整食標準化のための調理力アップ 「岩手県ガイドライン」作成 ② 食形態調理力アップ研修会《対コロナのため中止》 ⇒HPに調理動画、YT配信 ③ 食形態実態調査Ⅱ（88.2％） ④ 委員会2、専門委員会6	① 1,500部作成 ⇒全関係者配布 ② HP再生回数多数、自活力up ③ 「栄養管理情報提供書」活用拡大⇒病院69.5％、老健71.7％
3年次 2022	ご本人の栄養と家族の健康を支えます♥ 管理栄養士 ヘルスメイト ケアマネ 	① ★施設⇒在宅栄養ケア推進 「岩手県ガイドフイン」作成 ② 在宅栄養ステップアップ研修会 県内33市町村で開催 ③ 食形態実態調査Ⅲ（84.2％） ④ HPレシピ動画SNS活用 ⑤ 委員会2、専門委員会8	① 4,000部作成 →全関係者、市町村、地域に配布 ② 在宅栄養ケア支援に対応したい施設87.8％ ① 嚥下調整食対応施設71.1％ 特養が1.5倍増

図1　嚥下食ピラミッド



（出典）
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
学会分類（食事）2013及び2021（一部改編）